

上部白亜系和泉層群の北縁相と主部相から産出する放散虫群集の比較

The comparison with radiolarian assemblages from the Northern Marginal Facies and the Main Facies of the upper Cretaceous

吉野 恒平^{1*}, 松岡 篤²

Kohei Yoshino^{1*}, Atsushi Matsuoka²

¹新潟大・院・自然科学, ²新潟大・理・地質科学

¹Natural Sci., Niigata Univ, ²Dept. Geology, Niigata Univ

和泉層群は、西南日本の中央構造線に沿って分布する。本層群は岩相の特徴に基づき、北縁相・主部相・南部相の3相に分けられる(近畿西部MTL研究グループ, 1981など)。北縁相と同時異相である主部相は、北縁相の分布域よりも南西方に見られることが分かっている(Tanaka, 1989)。淡路島南西部に分布する北縁相と、阿讃山地東端の樋殿谷川に分布する主部相からは、アンモナイト化石 *Pravitocerassigmoidale* Yabe が産出する。このアンモナイトはカンパニアン後期を示す標準化石であり、産出年代範囲も短く、時代決定に有効な化石である(Matsumoto et al., 1981; Morozumi, 1985)。したがって、これらの地層は同時異相であると考えられる。これらの地層から放散虫化石の産出が確認されている。しかし、分布域が異なる群集の差異については明らかにされていない。また、和泉層群は大陸縁辺で堆積したとみることができる。そのため、将来的には和泉層群の群集と遠洋域の群集との比較を行うことができる可能性がある。本研究ではこれらの問題を明らかにすることを目的とする。

淡路島の北縁相中の珪質ノジュールから放散虫化石が産出した。約300個体の放散虫が確認されている。産出した放散虫化石は *Amphipyndaxstocki* (Campbell & Clark), *Amphipyndaxtylotus* Foreman, *Amphipyndax* cf. *tylotus* Foreman, *Amphipyndax* sp., *Archaeodictyomitrasquinaboli* Pessagno, *Archaeospongoprunum* sp., *Cryptamphorella* sp., *Dictyomitradensicostata* Pessagno, *Dictyomitramulticostata* Zittel, *Dictyomitra* sp., *Orbiculiformarenillaeformis* (Campbell & Clark), *Orbiculiforma* (?) *sempiterna* Pessagno, *Porodiscus* sp., *Pseudoaulophacus* sp., *Stichomitrasymbatos* Foreman, *Stichomitracampi* (Campbell & Clark), *Stylotrachus* sp. などが確認されている。

樋殿谷川の主部相中の泥岩から放散虫化石の産出が確認された。この地点からは須鎗・橋本(1985)によって報告されている。約80個体の放散虫が確認されている。ここから *Amphipyndaxstocki* (Campbell & Clark), *Amphipyndaxtylotus* Foreman, *Amphipyndax* cf. *tylotus* Foreman, *Archaeodictyomitralamellicostata* (Foreman), *Cryptamphorella* sp., *Dictyomitradensicostata* Pessagno, *Dictyomitramulticostata* Zittel, *Dictyomitrakoslovae* Foreman, *Dictyomitra* sp., *Rhopalosyringium* sp., *Stichomitrasstocki* (Campbell & Clark) などが確認されている。

両地点における群集を比較すると、スプレラリアに関しては、北縁相では円盤状のものが多く、主部相では球状のものが多く、ナッセラリアに関しては、主部相は北縁相よりも産出量が多い。また、*Amphipyndaxstocki* (Campbell & Clark) は両地点から多産するものの、*Archaeodictyomitralamellicostata* (Foreman), *Dictyomitrakoslovae* Foreman, *Rhopalosyringium* sp. は主部相でのみ確認されている。

Keywords: the Izumi Group, radiolarian, ammonite, late Campanian